

(2) 交感神経ブロック

(対象: 反射性交感神経痙縮症(RSD, CRPS type I)、帯状疱疹後神経痛 など)

- * 非常に有名
- 星状神経節ブロックで顔面・上肢の血管拡張と除痛が得られる
 - ホルネル症状 — (眼球陥凹、眼瞼下垂、縮瞳) の他、ブロック側の皮膚温上昇、顔面紅潮、結膜充血、鼻づまり、発汗停止などがあらわれる。

癌性疼痛

<WHO方式>

- 1) 鎮痛薬の経口投与を原則とする。
経口投与が不可能な場合は、経皮投与、直腸投与、持続皮下投与などを考慮する
- 2) 鎮痛薬は定期的に投与し頓用としない。
- 3) 鎮痛薬は段階的に投与する。(第1~3段階)

○ オピオイドローテーション

副作用のためにオピオイド投与の継続が困難になったり、十分な鎮痛効果が得られる前に副作用が発現する時に他のオピオイドに変更したり、投与経路の変更を行うのがオピオイドローテーションである。

- (目的)
- 1) 鎮痛作用の増強
 - 2) 副作用の軽減
 - 3) 耐性形成の回避